

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	中間就労における、定点の提供
資金分配団体名:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	一般社団法人SHOEHORN
実施時期:	2021年 7月～2022年 2月
事業対象地域:	東京都
事業対象者:	児童養護施設在寮/退所者ほか要支援の若者

Version 3.2

日付: 2022年3月31日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>①弊社が手掛ける事業にアルバイト/インターンとして関わってもらい、対象児/若者の生活の定点となり、次の目標（就職・進学・公的機関への相談など）のためのスモールステップとしても活用してもらおう。 主たる事業は、カフェ（BILLY's CAFE）と、YouTube動画（くつべらマンのプロにきく）の制作の2つ。</p> <p>②児童養護施設（現/元）職員が事務局・コーディネーターを担うことで、若者が利用する事の安心をつくり、また児童養護における支援と社会資源の適切なマッチングを図る。</p> <p>①多数の若者がアルバイトとして、主にYouTube動画の作成に関わってくれた。各自に役割をつくり、「仕事」として関わってもらったことで、参加した若者のスモールステップとして活用してもらえたと感じられる場面が多くあった。</p> <p>②定点となるカフェ営業を再開したことで、前店（シモキタナリ）閉店後、疎遠になりつつあった若者とも再会を果たすことができた。その後も、何かある毎に連絡をくれる若者もあり、「何も用事がなくても気軽に行ける場所」の意義を再確認できた。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>課題設定は妥当であったと感じる。</p> <p>弊社事業に参加する若者の多くは、「お金がない」「仕事がない」と相談をする一方で、「新しい環境に行くのが怖い」「何が出来るのか分からない」と、就職活動に対して足踏みをしている状況であることが多かった。</p> <p>児童養護施設退所児や若者については、就職活動に対して足踏みをすればする程に経済的に困難に陥りやすくなってしまいうため、単発のアルバイトとして参加し、当日の給与として現金が受け取れるというシステムは効果が大きかった。</p> <p>ただ何となく参加するのではなく、都度役割をつくり、それを各自に任せることで、責任感を持って仕事に臨み、終了後には達成感を得ることが出来ていたと感じる。</p> <p>また、若者同士で意見を出し合い、動画の構成を考えてもらったり、グループ化して役割をつくる等したことで、若者自身が自発的に意見を出す等、コミュニケーションが生まれていた。意見がまとまらない時にはコーディネーターとして大人のスタッフが中に入って情報整理等を手伝えることもあり、若者自身もそれを踏まえた上で安心して意見を話し合っていた。</p> <p>人との関りが新型コロナによって少なくなっている時に、同じ年代のものと同様で意見交換出来る場は大変重要であると感じている。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
その他	就業困難	取材/動画制作の実施件数が増える	YouTube動画の制作本数	アップロード本数: 計16本	22本 (100%)	受益者: 事業に参加する若者 取材本数を増やし、編集作業を若者や、新たな協力者に依頼したことで、取材頻度や編集作業時間が増え、結果につながった。
その他	事業実施上の困難	若者のカフェへの利用数が増える	常設拠点である閉店カフェの開店日数	開店日: 平均20日間/月	125日/8ヵ月 平均: 15.6日/月	受益者: 事業に参加する若者 カフェの休業期間があり、目標の開店日数に至らなかった。しかし、カフェ以外の連絡手段を活用したため、若者との関係が切れることはなかった。
その他	居場所の不足	若者のカフェへの利用数が増える	関係する若者が閉店で無料でドリンクを飲むことができるエールチケットの利用枚数	利用枚数: 10枚/月	16枚/8ヵ月	受益者: 事業に参加する若者 カフェにて作業を手伝ってくれる若者や、経済的に厳しい状況の若者には必要に応じて利用することができた。新たな利用者を増やすに至らず、目標達成とならなかった。
中間支援者	連携の不足	当企画への協力・協賛者/団体が増える	当活動の協力者・団体を増やすためのチラシ配布枚数	配布枚数: 400枚	109枚	事業期間当初は、ほとんどチラシを配布することが出来なかった。外部に営業に行く機会を増やした後半では、徐々に配布が出来た。チラシの設置・配布方法を見直す必要があったが、実施に至らなかった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	社会に主たる所属先のない若者が、弊社のカフェや中間就労を一時的な定点として利用することで、社会参加への意欲を高めるようにする。
考察等	<p>事業参加時に、中間就労の利用＝ゴールではないことを念頭に置いていた。あくまでも中間就労であり、参加する若者にとってスモールステップであるということ、スタッフが念頭に置いて関わることで、若者の「次のステップ」を考えた関わりになっていた。また、打合せ時など、若者と話す際に近況等を聞くようにしており、「話を聞く」とことを大事にし、若者自身の悩みや不安を言語化する機会を設けていた。</p> <p>弊社での取り組みを上手く利用して、より広い「社会」へと目を向けられるように、今後も努めていきたい。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
常設のカフェを営業し、立ち寄りやすくする	遅延あり	新型コロナの感染拡大を受け、緊急事態宣言中や、まん延防止等重点措置の間はカフェを休業とすることが多々あった。夏の間は、合計で2か月間の休業があり、その間は取材事業以外で若者と関わる機会が減少していた。その反面、営業期間には自発的に来店してくれる若者の多数いた。
エールチケット（無料ドリンク券）を利用してもらい、来店してもらいやすくする	ほぼ計画通り	弊社スタッフに会いに来店してくれる若者に対し、必要に応じてエールチケットを使用することができた。カフェのメニューに軽食が加わり、今後はドリンク以外の使用方法も模索していけると考えている。一方で、一般利用のお客様にエールチケットの存在を知ってもらい、認知を広げていく必要を感じている。エールチケットの利用数に対して、販売数は伸びなかった。
弊社スタッフが拠点にいる頻度を高め、若者とのコンタクトを取りやすいようにする	ほぼ計画通り	新型コロナの影響による休業期間はあったが、弊社のSNS等で在不在の告知をしていたこともあり、弊社スタッフが拠点にいる時間を確認した上で来店し、近況報告や、自身の作業等を行っている若者が多数いた。SNS等だけでなく、何も言わずに立ち寄ってくれる若者もいた。事前連絡が負担になる若者にとっては、カフェの存在意義は大きいのではないかと感じている。
拠点の予定を見える化し、立ち寄り機会を損なわないようにする	遅延あり	カフェのHPに予定を掲載し、貸切予約等があった際には事前に告知できる環境を整えた。弊社に用事がある若者は、カフェのHPよりTwitterなどのSNS等を確認していることが多かった。弊社HPにて、予定を確認できる様に変えていく必要があると感じている。現在、HPの改修を検討中。
世田谷区と共同のご飯会を毎月1回ずつ実施する	計画通り	新型コロナの影響により、食事会を中止にする期間があったため食事の提供をせずに開催する月があったが、毎月1回の実施は出来ていた。
連携する児童養護施設を増やす	遅延あり	弊社事業に興味関心を持ってくれる児童養護施設職員を増やすことは出来たが、新たな児童養護施設との連携には至らなかった。個人間での告知等を行ってきたので、今後は公的な告知に切り替えて行く予定。
連携する社会資源を見える化する	ほぼ計画通り	弊社事業に関わって下さっている（または利用させて頂いている）社会資源を、弊社HPに掲載した。
社会資源を紹介し、案内する	ほぼ計画通り	若者から相談等を受けた際、会社や制度について一緒に調べ、情報を共有した。実際の利用まで至ったケースは少ないが、共に情報を調べることで、若者自身が不安の解消に役立ててくれていた。
取材回数を増やす	ほぼ計画通り	当助成金を受けて、取材回数を増やすことができた。「くつべらマンのプロにきく」だけでなく、若者主導で実施するショート動画を新たに追加することができた。
取材先を若者と考え、より意欲的に参加できるようにする	ほぼ計画通り	取材時や、それ以外の場で打合せの機会をしっかりと作ることが出来た。その際に、興味のある取材先について聞き取りを行ったり、若者自身に取材依頼を行ってもらう等、活動内容の幅を広げることができた。
就職や相談など、取材後に必要であれば会社と若者が接点をもてるよう、機会を設ける	ほぼ計画通り	必要に応じて、当取材を受けてくれた企業の方に連絡を取り、事前に相談をして若者の相談に乗って頂いた。若者自身も、取材を通して一度会ったことがあることで、話がしやすかったと報告を受けた。
取材の引率者を増やし、取材機会を増やせるようにする	ほぼ計画通り	当事業に協力してくれる大人のスタッフが増えた。取材先に提示できる取材候補日が増え、以前より取材依頼が出しやすくなった。
中間就労の種類を増やし、体験就労できるようにする	ほぼ計画通り	動画取材に関する事業では、作業の種類を増やすことができた。一方で、カフェの中で体験してもらえる中間就労は増やせていない。今後も、動画取材以外の作業を増やしていき、より多くのニーズに対応できたらと考えている。
リモートで参画する機会を増やす	ほぼ計画通り	事業期間の前半では、リモート会議の機会は殆どなく、顔を合わせた取材や打合せか、電話連絡やメール等がメインとなっていた。事業期間の後半では、ZOOM会議を取り入れることができ、主に大人側との打合せが多くなった。通信環境と、ZOOMへの不慣れがあり、若者とのZOOM会議開始は遅れていたが、終盤では何度かやり取りができた。
エールチケットの売上が増えるよう、宣伝する	遅延あり	弊社SNS等、カフェ内でのチラシ掲示等で告知は実施できた。個別にチラシを配布する機会を設けた。しかし、売上に直結する事が殆どなかった。宣伝方法や頻度等を、引き続き検討していきたい。
取材の制作依頼、協賛費用が増えるよう宣伝する	ほぼ計画通り	弊社HPを改修し、より活動についての紹介が分かりやすくなった。また、有償での取材先を探している旨の営業活動にも力を入れるようになった。福祉新聞という業界誌に取り上げて頂き、より多くの人に当事業について宣伝をすることができた。今後も宣伝活動を継続し、有償の取材先確保に努めたい。
参加する若者の社会遂行能力を高め、動画制作の質を高め、チャンネルの視聴数や支持が高まるようにする	遅延あり	若者に依頼する作業の幅を増やし、より達成感や充足感を感じてもらえるように努めた。動画取材も、当助成金を受けられたことで、安定して実施ができた。一方で、編集作業に時間がかかってしまい、公開頻度が遅れるケースが多々あった。公開頻度が遅れることで、チャンネル視聴数や登録者数の減少に繋がってしまった。
当企画への支持が高まるよう、若者や支援者に推薦文を書いてもらう	ほぼ計画通り	取材に参加してくれた若者や、動画を見てくれる若者に直接依頼し、コメント等を書いてもらった。参加する大人のコメントはあまり依頼できておらず。今後は定期的に関わってくれた方や視聴してくれた方々にコメントを依頼していきたい。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>新型コロナの影響により、拠点となるカフェが休業となり、動画編集や打合せ等を気軽に実施できる場を提供できなくなった期間があった。</p> <p>動画編集時には、安定したネット環境が必要だが、その環境整備を若者が自分で行うことは難しい。</p> <p>編集作業についても、同じ空間（カフェ内）で気軽に質問をしながら実施ができない期間があり、依頼した作業にかなりの時間を要することとなってしまった。</p> <p>打合せについても、ネット環境が良好ではなく、ZOOM会議に参加し難いという若者もいた。</p> <p>今後も、カフェが長期間に渡って利用できない時などに若者と作業する環境や、ネット環境が良好でなくても実施できる作業等を検討していきたい。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>主たる所属を持たない（未就労や不登校など、社会参加に何らかの課題をもつ）若者が、弊社事業への参加を通じて、就労や進学など自己実現のためのキャリアアップとなる所属先を見つけ、社会参画を図っていく。</p> <p>新たな所属先を見つけた後も、職場環境や人間関係等でつまづき、所属先を失ってしまうケースは少なくない。その様な状況の時に、気軽に立ち寄れる場所として、拠点の維持は必要だと考える。</p> <p>また、立ち寄れるだけでなく、次のステップへ行くまでの活動として、引き続き中間就労の機会を用意して置くためにも、当事業の活動を続けていきたい。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人北沢おせっかいクラブ	<p>世田谷区と共同のご飯会実施会場として、北沢おせっかいクラブ運営の「おでかけ広場cobaco」を利用させて頂いている。</p> <p>新型コロナの感染拡大時には会場を利用した開催が無かったが、再開後には、ご飯会開催時に代表の方が参加し、地域の別団体の方と弊社代表を引き合わせて下さった。</p> <p>また、代表の方から若者に単発のアルバイトやボランティアなどの紹介もして頂いている。</p>
NPO法人 日向ぼっこ	<p>日向ぼっこと弊社事業の両方を利用する若者がパイプ役となり、当事業の取材を受けて頂いた。</p> <p>その後、日向ぼっこの方から、新たな取材先をご紹介頂いた。</p>
株式会社Sacco	<p>当事業の後援をして下さっており、不定期で有償の取材先をご紹介いただいている。</p> <p>また、弊社の取り組みを自社の広告サイト等にて宣伝してくださっている。</p> <p>今後、弊社商品のエールチケットの宣伝と販売にもご協力頂けるとのことで、随時実施している。</p>
世田谷区 児童相談支援課 社会的養護推進担当	<p>世田谷区フェアスタート事業の委託元。</p> <p>区からの委託を受け、毎月1回、児童養護施設退所者をメインに、社会的養護利用者（または利用していた若者）を対象に夕ご飯会を実施。</p> <p>令和4年度も事業継続の依頼があり、契約更新の予定。</p>

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	1,566,740	1,566,740	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		1,566,740	1,566,740	100.0%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<p>福祉新聞 2022年1月4日 発行（児童養護施設職員が、YouTube配信 就職支援で取材企業も募集） https://www.fukushishimbun.co.jp/topics/26992 coki掲載（株式会社Sacco コンテンツ）2022年3月13日 掲載（児童養護施設職員が仕掛ける新しい児童福祉業界のヒーロー「くつべらマン」 https://coki.jp/sustainable/sdgs/15516</p>
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<p>拠点となるカフェにて、弊社事業とエールチケットの宣伝をするためのチラシを作成・設置。</p> <p>エールチケットの印刷（100枚）</p> <p>弊社HPの改修。</p>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<p>弊社HPに掲載</p>
4.報告書等	<p>特になし</p>

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	定款の修正、アルバイトの給与規程の作成が完了。 定款に関しては、理事会での承認を受けておらず、次回（来年度5月予定）理事会にて承認を頂く予定。給与規程は、HP掲載ができておらず、現在整備中。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		今まで規程を設けていなかった「給与規程」が新しく設けられ、会社としての組織づくりが進んだ。 今年度（令和3年度）に新しく理事会設置法人となり、理事会の実施、会社としての決まりの作り方等を進めることができた。いまだ至らない点が多いが、一つずつ対処していきたい。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	年度途中からの理事会設置であり、更にはコロナ禍の為、今年度の理事会は1回のみの開催となった。 来年度より、年2回の開催、実施を行っていく。社員総会は、規定通り実施。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	当法人に、コンプライアンス委員会（または責任者）を設置する余力と体力がない。 今後、会社としての組織づくりを進めていく中で、検討していきたい。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	制度は整備されていないが、定期的に弊社代表が、事業に関わってくれるスタッフと個別に話をし、作業内容や働き方についての意見聞き取りを行っている。 現状、代表からの聞き取りで十分だと思っており、制度等は設けていない。 今後、必要に応じて制度の整備について検討していけたらと思っている。